

12月15日 マタイによる福音書 11章 2～21節

「イエス様につまづかないために」

次週のクリスマス礼拝は子どもたちが来る礼拝で、いつも通りわかりやすい内容のクリスマスのお話をします。そして、聖夜礼拝は「香りで感じる礼拝」として、すでに乳香と没薬の香りのお香を準備しています。皆様は乳香や没薬の香りがどのような香りかわかるでしょうか。

私たちは、聖書を通じてイエス様のことを様々学んでいますが、時にイエス様のことをほとんど知らないことに気付きます。イエス様の見た目も声も、まどう香りも服の手触りも、何も知らないのです。それはやはり、イエス様が自分のことを伝えることを目的にしていたのではなく、神様の事を伝えることに全ての意識を注いでいたからだと言えるでしょう。

今日の聖書箇所を示されている「洗礼者ヨハネ」という人物も、イエス様と同様に神様のために生きた人物でありました。それこそ、イエス様から「もっとも偉大な人物」と高く評価されるほどに、神様のために生き続けた人物でありました。

今日の箇所は、ヨハネがヘロデ王に捕らわれた後の出来事なのでしょう、洗礼者ヨハネの弟子とイエス様の対話が行われています。ここでイエス様は、ヨハネの「あなたがメシアなのか、私たちが待ち望んでいた方なのか」という意図の質問に対して、ここまで起こしてきた奇跡を挙げながら「起きた事実をもってそう判断しなさい」と語りかけています。そしてその言葉に加えて、「私につまづかない人は幸いである」と、イエス様を受け入れることの恵みの大きさと、拒絶することによる滅びの恐ろしさを伝えています。

人々は何故、イエス様の言葉やヨハネの言葉に躓き、悔い改めることが出来なくなっていたのでしょうか。それはやはり、彼らもまた「信仰者であった」ということが大きな理由だと思えます。イエス様が批判する人々は、多くがファリサイ派と呼ばれる、律法への信仰に生きる人々でした。彼ら自身は律法を守り、神様に忠実に生きたいと願っていた敬虔な信仰者でありました。しかし彼らは、伝統的に守られてきた「律法を守ること」に固執しすぎて、本当に守るべき神様の御心が理解できなくなってしまっていました。

私たちもまた、このアドベントの期間を通して、「今の自分で問題ない」と、頑なになってしまっていないかを確認したいものです。私たちは日々聖書を通じて、神様の御心を学んでいます。しかし冒頭の言葉のように、まだまだ私たちにも知らないことや理解しきれていない事がたくさんあるのです。「全てを知らなければいけない」「すべてを知ることが出来る」と思ってしまうことは良いことではありませんが、しかし私たちは「知らなくてもいい」と、今の自分に満足してしまうことは避けなければいけません。神様は、罪深い私たちを愛してくれている慈しみ深い方ではありますが、私たちがいつまでも罪の中にもいいと考えているわけではありません。私たちに一切関心を払っていない方ではないのです。神様は私たちを愛しているからこそ、私たちにより善く生きてほしいと、今よりもより神様のことを、隣人のことを愛する愛の交わりを広げ続けてほしいと、いつも私たちに関わり続けてくださっている方なのです。だからこそ私たちは、御言葉や祈りを通じてこれからも神様との交わりを続けていくのです。

独り子であるイエス様をこの世に与えて下さったほどにこの世を、私たちを愛してくれている神様への応答として、このクリスマスまでの日々を愛に満ちたものとするために、この一週間をまっすぐに歩んでいきましょう。

今日の説教箇所：マタイによる福音書 11 章 2～21 節

- 2:さて、ヨハネは牢の中でキリストのなされたことを聞いた。そこで、自分の弟子たちを送って、尋ねさせた。「来るべき方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか。」イエスはお答えになった。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、規定の病を患っている人は清められ、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。私につまずかない人は幸いである。」ヨハネの弟子たちが帰るとき、イエスは群衆にヨハネについて話し始められた。「あなたがたは、何を見に荒れ野へ出て行ったのか。風にそよぐ葦か。では、何を見に行ったのか。柔らかい衣をまとった人か。柔らかい衣を着た人なら王宮にいる。では、何を見に行ったのか。預言者か。そうだ。言うておく。預言者以上の者である。『見よ、私はあなたより先に使者を遣わす。／彼はあなたの前に道を整える』と書いてあるのは、この人のことだ。よく言うておく。およそ女から生まれた者のうち、洗礼者ヨハネより偉大な者は現れなかった。しかし、天の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である。洗礼者ヨハネの時から今に至るまで、天の国は激しく攻められており、激しく攻める者がこれを奪い取っている。すべての預言者と律法が預言したのは、ヨハネの時までである。あなたがたが進んで受け入れるなら、この人こそ、来るべきエリヤなのである。耳のある者は聞きなさい。今の時代は何にたとえたらよいか。広場に座って、ほかの者たちに呼びかけ、こう言っている子どもたちに似ている。『笛を吹いたのに／踊ってくれなかった。／吊いの歌を歌ったのに／悲しんでくれなかった。』ヨハネが来て、食べも飲みもしないと、『あれは悪霊に取りつかれている』と言い、人の子が来て、食べたり飲んだりすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。しかし、知恵の正しさは、その働きが証明する。」